

静岡県との懇談会

9月19日(火)、中経連は静岡県との懇談会を開催し、双方の今年度の重点事業に関する情報共有、意見交換を行った。静岡県からは川勝知事、難波副知事、土屋副知事、吉林副知事をはじめ14名、中経連からは豊田会長、中西副会長、中村副会長、水野副会長をはじめ13名が参加した。懇談概要は以下のとおり。

豊田会長は、「静岡県には『世界クラスの資源群』をはじめとする素晴らしい観光資源があり、中経連の観光委員会の活動や5月に発足した広域連携DMO『中央日本総合観光機構』とともに観光資源の磨き上げや情報発信に取り組んでいきたい」と述べた。

一方、川勝知事は、「昨年、新東名高速道路の浜松いなさJCT-豊田東JCT間が開通し、東西の



ダブルネットワークが形成された。中部横断自動車道や三遠南信自動車道の南北の交通ネットワーク形成についても早期整備されるよう支援してまいりたい。また、観光、健康・医療、食、農業など、様々な産業の振興を通じて県内の地域活性化を図っていきたい」と述べられた。

その後、双方の重点事業の説明と意見交換が行われ、有徳の人づくり(実学の奨励など地域総がかりによる人材の育成およびインターンシップを通じたグローバル人材の育成)、県外に進学した学生のUターンなど人手不足解消に向けた取り組みおよび住みたくなるまちづくり、サービス産業の生産性向上、清水港を生かしたまちづくり等について幅広く意見交換した。

(企画部 岡戸 信之)

中経連

ダイジェスト

香港貿易発展局総裁 表敬訪問



9月14日(木)、香港貿易発展局総裁のマーガレット・フォン(方舜文)氏が中経連を訪れ、豊田会長、藤原常務理事事務局長等と懇談した。

フォン氏は、「昨年の訪日香港人は184万人で、人口約730万人のうち、4人に1人がビジネスや観



光を主目的に東京、大阪、北海道、中部など日本各地を訪れている。昇龍道エリアでは富山、黒部、白川郷、飛騨、高山、下呂などの観光地が人気である。香港では陶磁器にも注目が高まっており、

常滑、多治見、瀬戸などの陶磁器産地に興味を示す人が多い。中部圏は訪れるたびに新しい発見がある興味深い地域であり、今後も注目していきたい。また、香港、東京、大阪で日本の企業や一般向けのイベントや講演会なども常に開催しているので、中部圏でも是非実施したい」と述べられた。

豊田会長は、「現在、インバウンド観光に力を入れている。中部圏は、産業、文化、芸術など様々な分野で、魅力的なものが揃っているのです。今後もPRをしていきたい。2019年秋には、中部国際空港島に国際展示場ができる。両国が相互で行き来できるイベントやフェアを開催できたらよいと思う。是非、積極的に協力していきたい」と発言した。

(国際部 平山 りえ)

国交省スーパー・メガリージョン 構想検討会



9月22日(金)、国土交通省の主催で、リニア中央新幹線の開業効果の最大化について話し合う有識者会議「スーパー・メガリージョン構想検討会」の初会合が東京都内にて開催され、山名中経連副会長が委員として参加した。

検討会では、三大都市圏の移動時間が短縮されることで生じる経済・産業構造、生活、価値観の変化を予想し、それらの効果を最大限に引き出すための方策を探る。その上で、各地で共通して取り組むべきことや国土デザイン、地域デザインの基本的方向性をまとめる。

検討会の座長を務める政策研究大学院大学教授の家田仁氏は、「約50年前の東海道新幹線開業は日本列島を1日で往復できるインパクトを与えた。リニア開業はそれ以上のインパクトを全国規模で与えることになるはずだ」と発言。「将来の予想は難しいが、先々のライフスタイル、経済を先読みして開業効果を最大限に引き出すために何をすべきか皆さんと考えたい」と続けた。

検討会の中で山名委員は、「中部はものづくり拠点として、グローバル視点で国際競争力を高めることが重要。また、都市の持続的成長には安心・安全であることや文化・環境面、ダイバーシティ等が大切な要素である」と発言した。



今後、約1年間は経済効果の定量的分析とビジネス各界から招くゲスト・スピーカーとの意見交換により、幅広く意見を集約し、2018年夏に中間報告、2019年夏に最終報告をまとめる。

なお、委員14名のうち4名が中部から選出されており、リニア圏の中心地としての発信力が期待されている。

(企画部 加治 貴史)

とよたPR大使 表敬訪問



9月27日(水)、とよた元気プロジェクト実行委員会会長の三宅豊田商工会議所会頭がとよたPR大使(2名)等とともに、豊田市の観光PRのために中経連を訪れ、豊田会長、小川専務理事等と懇談した。

とよたPR大使から、地元こだわりの加工食品を掲載するwebサイト「WE LOVE とよたマルシェ」、豊田市を舞台とした映画「星めぐりの町」の紹介や香嵐溪の紅葉、小原の四季桜等秋の観光スポットの紹介があった。

豊田会長は、「観光客誘致には、こうした地元の努力が不可欠であり、また、行政区画にとらわれない面での取り組みが重要である」と述べた。

(総務部 久世 康浩)



もとづき意見交換を行った。各経済連合会の代表者発言において豊田会長は、「経済界から自らが『まず声をあげる』、『とにかく動く』」をテーマに、イノベー

ション力の強化、地域産業活性化、観光産業の振興、社会基盤整備の推進について中部における取り組みを紹介するとともに、西日本が一層連携を深めていくことの重要性を訴えた。また、国土強靱化税制について、今後の要望や署名活動にも各経連と共同で取り組んでいくことを提案し、出席者の賛同を得た。

その後、①地域産業構造の高度化と海外活力の取り込み促進、②観光振興、③人口減少社会への対応、④産業等の基盤であるエネルギーの安定的供給体制の構築、⑤広域連携と国土強靱化に資するインフラの整備、⑥地域の自立・活性化につながる地方分権改革の推進の6項目から構成される決議を採択した。あわせて、関経連より提案のあった、2025年国際博覧会の大阪・関西誘致に向けた共同宣言を採択した。

今後、中経連は各経連と連携のうえ、決議項目の実現に向けて活動を展開していく。

(総務部 伊藤 康隆)

西日本経済協議会 第59回総会

10月4日(水)、中部および北陸、関西、中国、四国、九州の6経済連合会で構成する西日本経済協議会は、第59回総会を金沢市内にて開催した。総会には6経済連合会の会長をはじめ約180名が参加し、中経連からは豊田会長、水野副会長、柘植副会長をはじめ21名が出席した。

統一テーマ「活力と魅力溢れる地域の実現による日本再興への貢献—東京一極集中の打破—」に

新入会員大募集!!

中経連は、2017年4月より、イノベーション委員会、地域産業活性化委員会を新設するなど、委員会体制を刷新し、新たな活動にも取り組んでまいります。つきましては、共に活動いただける仲間をもっと増やし、これまで以上に地域の期待に応え、より大きな成果をあげていきたいと思っております。会員の皆様におかれましては、ぜひとも新しい仲間をご紹介いただければ幸いです。何卒ご協力をお願い申し上げます。

【問い合わせ】総務部 伊藤 TEL 052(962)8091

中部の未来を
ともに考え
行動しませんか

会員増強に
ご協力ください